(1)2005(平成17年)6月26日(日曜日)
VOL.10
●無料誌 ●年4回発行 ●部数:4.5万部 ●配布エリア:岩見沢市・三笠市・美唄市・北村

大好き！幾春別川
DAISUKI! IKUSYUNBETSU RIVER

発行元：幾春別川ニュース編集委員会
編集委員長　嵯峨　義輝
〒068-0007
岩見沢市7条9丁目　石狩川開発建設部岩見沢河川事務所内編集委員会事務局
TEL：0126-23-9555　FAX：0126-25-1697

サケくん また会う日まで元気でね！

幾春別川・サケの稚魚放流壮行会

平成17年度のサケの稚魚放流壮行会が4月14日(木)、岩見沢市若松町の幾春別川左岸で、「幾春別川をよくする市民の会」と岩見沢商工会議所青年部の主催により、約750人が参加して行われました。

昨年の12月から、市内の学校や保育園、企業など69ヵ所で、発眼卵から大切に育てられ、大きく成長した稚魚約1万8,000尾が、育ててくれた子ども達によって放流されました

壮行会は、「幾春別川をよくする市民の会」嵯峨会長の「サケの赤ちゃんを元気で見送り、きれいな川にして帰って来るのを待ちましょう」との挨拶で始まり、渡辺岩見沢市長のお話の後、日の出保育園の神田くんと羽賀さん二人による元気なサケの稚魚を送る言葉がサケの赤ちゃん達に送られ、放流が始まりました

まだ、肌寒い一日でしたが、多くの園児、児童、生徒や関係者に見守られながら、サケの稚魚は幾春別川を元気に下っていきました

渡辺岩見沢市長

「サケの稚魚放流は、市民の会の方々などと一緒に行っていく事業として尊重しています。また、子どもたちに大きな夢を与えられることが一番だと思っています」

ぼくたち　わたしたちが　たまごからいっしょうけんめいにそだてて　こんなに　おおきくなりました。
おわかれするのは　さみしいけれど　ひろいうみで　たくさんあそんで　また　もどってきてくださいね。
ぼくたち　わたしたち　みんなで　かわをきれいにしてまっています。
いってらっしゃい。
（神田 海成(かいせい)くん・羽賀 汐音(しおね)さん）

長い間、大切に育てくれたみなさん、本当にありがとう！

連載⑤ 流域の野鳥 夏

縄張りを守る コヨシキリ

コヨシキリは、5月上旬に河川敷地の草原や草地に飛来する。幾春別川では河口から三笠市の唐松付近まで観察できる。

撮影場所に行くと、ヒバリのさえずりに負けまいと聞こえてくるのがコヨシキリです。

約13センチ、スズメよりも小さな体で、ジョッピリリ、ジョッピリリ、ギョッギョキリキリ、チリリと早口で、忙しそうに鳴く。お気に入りの背丈の草の上でさえずり、人が近づいてもギリギリまでさえずりヒョイと草の中に逃げ込む。

撮影準備が終わり、迷彩ブラインドをかぶりしばらくすると、足下でジッ・ジッ・ジッと地鳴きしながら周辺を飛び回り、お気に入りの場所へ戻ってさえずり始める。何ヵ所かのお気に入りの場所を一定の時間の間隔で縄張りをチェックして戻ってくると、また足下に来てしきりにジッ・ジッと鳴きながらブラインドの周りを一周する。何か変だと疑っているみたいだ。早く、お気に入りの場所へ行けと願いながら息を殺して待つ。

ようやくお気に入りの場所へ行ってさえずり始める。約10メートルの距離で撮影を開始。一段落して、時計を見ると40分くらい時間がたっていた。まだ、さえずっている。

（岩見沢野鳥の会　若林信男）

育ててくれたみなさんありがとう。また幾春別川で会いましょう!

発眼卵から大切に育てたサケの稚魚とのお別れ、飼育最後の日から放流までの様子について、みどり保育園とメイプル小学校、スーパーハルキ栄店さんに取材しました。

最後の日、4月14日(放流日当日)園児と一緒に記念撮影。放流には年長の5～6歳の24人が参加しました

緑保育園

小谷副園長

稚魚の飼育最後の日を迎えた感想を、みどり保育園の小谷副園長にお聞きしました。

副園長さんは「幾春別川をよくする市民の会」の理事でもあり、平成2年からはじめた飼育と放流は試行錯誤を繰り返し、一時は川の水を割って放流したこともあったそうです。保育園での飼育も他に先駆け、平成3年から園長先生を中心に行いました。最初のころ、水槽の水は幾春別川の水を使うなどしていました。

「今年の稚魚の成育は例年に比べて1週間ほど早く、とても元気です。子どもたちは初めは不思議に思い、だんだん可愛いという気持ちを持ちます。今後も毎年続け、出来れば帰って来たサケも見せてあげたいと思います」と話してくれました。

写真 (右下)みんなでお手伝いして、水槽からサケの稚魚を移します (中)バスに乗って放流壮行会場に着きました (左)いよいよ放流が始まりました

メープル小学校

メープル小学校では、平成11年から飼育を始め、毎年20尾を飼育しています。

「飼育には用務の方にも手伝っていただき、先生や生徒たちも協力して飼育しました。学校の水槽にはクーラーが付いていて温度管理には心配なく、みんな元気で順調に育ってくれています」。

苦労したことは「発眼卵からふ化する時期が、クリスマスから年末にかけてなので、多少、年末年始が忙しくなるくらいですね」と教頭先生が笑いながら答えてくれました。

2年生の4人の生徒さんたちからサケについてのお話を聞いたところ、サケとお別れするのが「さびしい!」と全員が答えてくれました。

スーパーハルキ栄店

スーパーハルキさんは、岩見沢市内3店舗でサケの飼育を行っています。栄店さんでは売り場の中で飼育しており、買い物客もサケの成長を楽しみにしています。

「サケの飼育は5年ほど前から社長の発案で始めました。私は以前も別の店で飼育を担当しておりそちらでは風除室で育てていました。こちらの店では店内なので、温かくなりすぎないよう水温管理に苦労しました。ふ化のときに水の交換を多くし過ぎたため、サケが弱ってしまうこともあり、今年は少し数が少なくなり、とても残念です。

お客さまが喜んでくれるのを見ると、とてもうれしく感じます。また、サケの稚魚たちはお客さまとのコミュニケーションに役立ってくれています。地域にある店として、今後もこのコミュニケーションを大事にしたいと思います。

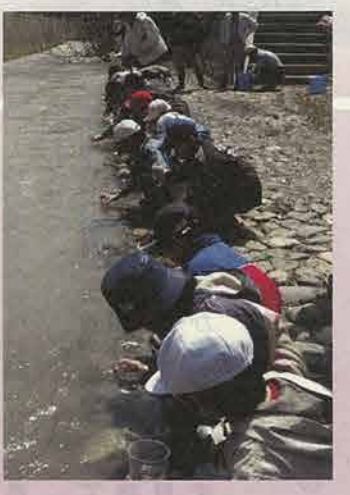
稚魚には元気で海までたどりついてほしい。明日はこのサケたちを抱えて放流に参加します」と鷲頭(わしず)店長さんがお話してくれました。

三笠でも放流したよ!

三笠市では、昨年の12月7日に道立水産ふ化場(恵庭市)から約2、800粒の発眼卵の提供を受け、市内の小・中学校7校で飼育・観察してきたサケの稚魚たち約2、500匹を、4月8日(金)と27日(水)にそれぞれ放流しました。

8日は、小雨の降る肌寒い、あいにくの天気でしたが市内の三笠小学校、岡山小学校、美園小学校、新幌内小学校、幾春別小学校の5校で、各小学校の児童が学校近くの護岸や水辺の楽校で、放流をしました。27日には、幌内小学校で校舎の前を流れる幌内川(幾春別川の支流)に、三笠中央中学校では幾春別川の青山橋でそれぞれサケの稚魚を放流しました。

子供たちは、コップやバケツに入った体長3～4センチほどの稚魚を水の中に放し、「元気でね」「いってらっしゃい」「帰ってきてね、約束だよ」などと声を掛け見送っていました。



幌内小の放流のようす
(27日、幌内川)みんなで、「元気でね!」

岡山小の放流のようす
(8日、新萱野橋)
サケクラブを結成し、旗も作りました!

幾春別小の放流のようす
(8日、魚染の滝)
友だちと仲良く「行ってらっしゃい!」

VOL. 10

編集委員座談会

「大好き！幾春別川」は、10号発行記念

“川のすばらしさ”を伝える情報誌

平成15年6月1日から3ヶ月ごとに発行してきた「大好き！幾春別川」も、今回で一区切りの第10号となります。記念として、制作に携わる編集委員で、市民活動を行っている3名の方々による座談会を開きました。編集委員としてのご苦労や、これからの展望についてお話していただきました。

編集委員長　嵯峨　義輝
幾春別川をよくする市民の会　会長

子どもたちの「参加の機会」を増やし、「主役」にしていきたいですね（嵯峨）

―10号を迎えた感想をお聞きします。

嵯峨　もう10年以上「幾春別川をよくする市民の会」の活動をしています。私たちが子供のころは川で遊んだものでしたが、その後、川は危険な場所でフェンスがあり、近づいたり遊んだりしてはいけない場所となってしまいました。そのようなころ、私たちは川の会を始め、活動をしてきました。

このような社会の中で、川のニュースの新聞が2年半も続いたことにも驚きましたが、地域の人たちの意識が大きく変わってきたことと、川を核にした新聞のニュースが途切れることなく続けられたニュースソースの豊富さに改めて驚いております。

髙篠　まず、幾春別川によってつながる3団体の交流が深まったと思います。

みなさん川での活動をしていますのでニュースソースは大丈夫だろうと思っていましたが、やはり川に対する情熱があってここまで続けてこられたと思います。例えば、イベント紹介のほかに、子供たちの活動の様子や名人シリーズ、川について説明している「ドクター・リバー」、読者による写真の投稿「水辺の風景」など、まだまだ伝えることには尽きませんね。

島　平成15年3月に編集委員会でみなさんとお会いして、もう2年半になります。北村の会の活動もこの新聞を見てもらったおかげで、広く村内の方々に知られるようになってきています。

これからは、川だけでなく農・商・工も岩見沢を空知の中心とした地域連携を深めていきたいですね。幾春別川を中心として、地域住民が一つになれるようになっていければ良いと思います。

―編集委員会でご意見をうかがってきましたが、発行にあたってはどのようなところに気をつけられましたか。

嵯峨　河川管理者と市民が協働で行うこのような形態の情報誌は、行政の広報誌になりがちです。そのために、私たちの活動を前面に出しながらも、河川行政がどのようなことをしているのかを、さりげなく伝えられるように配慮しています。

川を中心として、衣食住に関係した情報も紹介していきたいですね（髙篠）

編集委員　髙篠　和憲
三笠の湖・川・緑を愛する会　会長

島　あくまでも、住民の方々が知っている知識や情報を広く伝えるように、なるべく市民の声を載せて、一方通行にならないようにしています。

髙篠　年齢層を子供からお年寄りまで幅広く対象にした記事にしました。フラワーラインの緑中学校や旧美唄川の河川調査で、子供たちの記事を載せた時の反響がすごく良かったので、私たちの考え方も確かめられましたね。

嵯峨　これからは、子供たちをどのように参加者から主役にしていくかが、我々市民活動団体の大きなテーマになると思います。

島　そんな場所を提供してあげるのが私たちの役目ではないでしょうか。選ぶのは子供たちですけど、今の子供たちって忙しいですからね（笑）。

―これからの「大好き！幾春別川」をどのように展開して行こうとお考えですか。

嵯峨　幾春別川に関わっている地域のみなさん、すなわち岩見沢市・三笠市・北村・美唄市の市民・村民のみなさんが主役になる、つまり、その人たちの新聞になっていくと、もっとおもしろい新聞になると思います。

編集委員　島　一雄
NPO法人　山のない北村の輝き
事務局長

編集委員も固定された方だけではなく、いろいろな人が参加して、毎号編集委員が違うというのも良いのではないでしょうか？そのような新聞を作れると、本当の意味でみんなの新聞になると思います。

髙篠　お年寄りには昔の出来事を語っていただきたいし、子供たちの川への思いが載るようにしたいですね。

また特集シリーズが続くように、読者の方に推薦や立候補もしていただきたいですね。

ほかにも、川を通じて衣・食・住に関係する事柄など、川に直接関係ない記事に発展しても良いのではないでしょうか？そうすることによって自由度が広がると思います。

島　せっかく良いものを作っていますので、全道や全国にも広めて行きたいと思います。

岩見沢河川事務所のホームページにもこの新聞が掲載されていますが、少しずつ新聞を通して私たちの活動をPRしていきたいと思います。

―10号以降も「大好き！幾春別川」を地域住民の方々に楽しんでいただくため、みなさんのご協力、どうぞよろしくお願い致します。

地域はもちろん全道や全国にも広めたい。PRが大切ですね（島）

※岩見沢河川事務所HP　http://www.is.hkd.mlit.go.jp/08isiken/02genba/22iwamizawa/index.html

座談会の様子。終始和やかな雰囲気で行われました

「大好き！幾春別川」
バック・ナンバー
→ スタート！

創刊号
2003年6月1日
「幾春別川の魅力再発見」

VOL．2
2003年7月26日
「豪快！カヌー競技会」

VOL．3
2003年10月26日
「自然満喫！トムソーヤキャンプ」

続く．．

VOL．4
2004年1月25日
「残された鳥たちの楽園『宮島沼』」

VOL．5
2004年3月28日
「北村に森をつくろう。真冬の植林」

VOL．6
2004年6月27日
「三笠・水辺の楽校『であい』」

VOL．7
2004年9月26日
「フラワーライン2004」

VOL．8
2004年12月26日
「北村・旧美唄川河川調査」

VOL．9
2005年3月27日
「幾春別川・新水路切り替え」

ビュースポット

溝口さんから聞いた
桂沢湖の見どころ！

国道452号の桂沢大橋
秋の紅葉時期がおすすめ！

桂沢湖畔
公園にはボート乗り場と、巨大な恐竜が・・・

②ダムの中にあったトンネル。「監査廊」って言うんですが、とにかく涼しい（寒い）。1年を通して8℃位だそうです

①ここでダムのゲート操作をします。右のテレメータからの情報でダムに入ってくる水の量がわかるんですって！

③中にあった浄水場へ送っている水のパイプ。私たちの飲み水はここを通っているのです

④ダムの中から外に出られました。下から見上げて、改めてダムの大きさを感じました

雅美の 体験レポート ダム探検隊

幾春別川の流域には川と関係の深い様々な施設があります。新シリーズとしてＦＭはまなすの「千葉雅美（ちばまさみ）」がレポーターとなり、体を張ってレポートをしていきます。

今回は、春たけなわの幾春別川上流にある桂沢湖を訪ねました。

今回の 案・内・人

北海道開発局
石狩川開発建設部
「桂沢ダム管理所」
管理係 溝口勝己さん
（みぞぐち　かつき）

桂沢ダム上空からの眺め

感想

ダムは、水道用水として雨水を貯める場所だと思っていましたが、雪解け水など山から流れてくる水を貯めるということや、芦別川からも水がきていることにも驚きました。また、水力発電や、かんがい用水に使われているということも知りました。

操作室や監査廊は普段入れるところではなく、珍しいものがたくさんあり、とても興味深かったです。

ダムの管理をするために、操作室での操作や監査廊の長い階段と通路を行き来する職員のみなさんは、本当にタフです！

なかなか見ることのできないダム管理のことが少しでもわかり、非常に勉強になりました。

⑥ダムの上で、ちょっと休憩。さすがに、60メートルを階段で上るのはつらいわ！

⑤監査廊に戻ると、パイプから水が出ていました。ダムを下から持ち上げようとする力があるからなんですって

ひとことメモ　ダムの概要

その1. 昭和 26 年に着工、昭和 32 年完成。
その2. 上水道、かんがい用水、発電、洪水調節などの機能を持つ、**“北海道で最初の本格的な多目的ダム”**。
その3. 形式は重力式コンクリートダム。
その4. 高さ 63.6 m（札幌時計台の高さ 3 つ分）
堤頂長（ダムの一番上の長さ）334.25 m。
その5. 有効貯水量 8 千 180 万立方メートル（札幌ドーム 52 杯分）。
詳しくは、桂沢ダム管理所のホームページで！
http://www.is.hkd.mlit.go./jp/08isiken/02genba/42katura/index.html

幾春別川　ふるさとの川づくり懇談会

平成 15年より行われている、「幾春別川ふるさとの川づくり懇談会」が今年も5月 31日（火）岩見沢コミュニティプラザで開かれました。今回は「石狩川水系幾春別川河川整備計画原案」の他、川向頭首工で魚道調査の現地視察も行われ、多くの意見が出され、その意見は今後の幾春別川の川づくりなどにいかされます。

魚道で捕獲された魚

桂沢湖や周りの自然が大好きな人♥会議

3月 10日、三笠市民会館で「第２回桂沢湖や周りの自然が大好きな人♥会議」が開催されました。前回出された夢や希望の整理が行われ、それを実現するために必要なことを話し合いました。当日は「流木アート体験会」も開催され、委員の皆さんも慣れない手つきでスタンドランプづくりに取り組んでいました。

幾春別川流域 ふるさとの祭り

連載⑪（三笠市）

幾春別川流域のそれぞれの町には、古くからの伝統を継承し引き継がれているお祭りや、新しく地域おこしや町のシンボルとして始められたイベントなど、ふるさとの祭りがあります。

1950年代の盆踊り（幾春別）

山の安全を願う 山神信仰・炭山祭り

炭鉱地帯の炭山祭りは、坑内の安全を願って行われる「山神祭（さんじんまつり）」ともいわれ、一般集落の神社の祭りとは違うものでした。

三笠の幌内神社、幾春別神社でも毎年5月11日から13日の3日間、全山あげての祭典が行われました。獅子神楽（ししかぐら）、みこしの渡御（とぎょ）、また境内から参道にかけては芝居小屋や、露店などが並び、大変にぎやかな祭りでした。しかし炭鉱閉山による地域住民の減少にともない祭りの規模は小さくなり、最近はわずか幾春別神社だけで行われ、日程も1日と短縮され、子どもみこしを主体に継承されています。

北海盆唄発祥の地1万人が踊る「三笠北海盆おどり」

今年も、第4回目となる三笠北海盆おどりが三笠市中央広場で8月13日から15日と20日の4日間にわたって、子ども盆踊り、仮装大会、三笠出身歌手によるふるさと訪問音楽祭や花火大会などが行われます。

北海盆おどりは、明治中期から三笠の炭鉱街で唄われ踊られた〝ベッチョ節〟〝ベッチョ踊り〟がルーツで、炭鉱の全盛期には大きなやぐらの下で、幾重もの踊りの輪ができてにぎわい、昭和30年代には北海盆唄と北海盆踊りとして全道に広がりました。

その後、1989（平成元年）に三笠市最後の幌内炭鉱が閉山し、隆盛を極めていた盆踊りも各地区で細々と行われていましたが、1993（平成5）年には、北海盆唄発祥の地として、北海盆唄の継承を目指し全国大会を開催しました。2001（平成13年）には、三笠市の開基1200年の記念事業として、炭鉱全盛期をしのぐ盆踊りの大やぐらを再現、翌年から「三笠北海盆おどり」が再開されました。

ライトに浮かび上がる9メートルにもおよぶ三層の大やぐらのもと、北海盆唄全国大会優勝者が歌い手となり、太鼓や笛のお囃子（はやし）にのって仮装などで踊る輪は往年のベッチョ踊りをしのぐにぎわいを見せています。

参考文献　「三笠市史」

幾春別神社まつりの現況
（上）子供みこし
（下）獅子神楽

昨年の盆おどりの様子

第4回三笠北海盆おどり
- 日時：8月13日（土）～15日（月）・20日（土）
- 場所：三笠市中央公園
- 問合せ：三笠北海盆おどり実行委員会事務局 電話01267・2・2249

第13回北海盆唄全国大会
- 日時：7月10日（日）、午前10時開演
- 場所：三笠市民会館
- 入場料：前売り500円（当日600円）

第13回「幾春別川カップ・イン・三笠」

「三笠カヌークラブ」

北海道のカヌースラロームの草レースとしては、最も大きいイベントとして定着した、第13回「幾春別川カップ・イン・三笠」カヌー競技大会が、6月18・19日、三笠市西桂沢の幾春別川特設カヌーレースコースで行われました。

今回は、フリースタイルの第一人者の貝本宣弘さんを迎え、地元や札幌の他、遠くは釧路から集まった中学生から50代までのパドラー約80名がエントリーし、コースや流れに苦戦しながらも、幾春別川の流れを楽しみました。

フラワーライン2005

「幾春別川をよくする市民の会」

6月2日（木）、狩野橋下流左岸で「幾春別川をよくする市民の会」主催の『フラワーライン2005が行われました。

参加者180名の内、近隣の緑中学校からは110名の生徒さんが自主的に参加され、河川敷の40mの花壇に、ハマナス40本、エゾムラサキツツジ40本、ラベンダー180本、ヘメロカリス120本、アルメリア80本の植栽を行いました。また、今まで植栽を行った箇所に生える雑草の草刈も行い、開花のシーズンの準備が整いました。

川とわたしの思い出

「幾春別川を故郷に」 2－②

三笠の湖・川・緑を愛する会 事務局長　高橋　嘉徳

調査は『幾春別川湧水及び滲透水地調査』と名称を変更した。『湧水』だけでなく、『滲透水』のあるところも調査に加えられ、平成6年10月に行われた。

調査範囲は魚染の滝から川向頭首工までの本流とその支流と定めた。

上流から、川こぎをしながら下り、深いところは岸に上がって回り、産卵場所の適地を捜した。

湧水は、断層や地層の境目となる場所の水の動き、水温の変化、清澄の様子など、細かいところにまで配慮しながら進められた。また滲透水は、砂利の堆積に注意を払いながら、特に堆積の末端の水の動きを見回った。

期待される断層や地層の亀裂は、地質図によると、魚染の滝から川向頭首工までの間には、ヌッパの沢合流点上流付近に三笠断層があり、唐松付近や幾春別にも衝上断層が見られる。魚染の滝より上流には、もっと多くの断層が見られる。また地層も、滝の上層や幌内層などの地層境界も見られる。

しかし調査の実際は、砂利の堆積は目につくが求める湧水はなかなか見つからない。わずかに、旧国鉄幾春別線にかかる鉄橋上流100メートルくらいのところで湧水を見つけただけであった。しかし滲透水を予想させる直径5、6センチメートルの砂利の堆積は栗丘橋下流など、いたるところに見られる。マスなら喜びそうだ。

調査範囲内ではサケやマスの産卵適地の確信はできなかった。早く魚道を完成させてサケを遡上させ、自然なサケの行動を見守るしかないようである。

（おわり）

わがまちの名人

米作り名人
安達　武雄さん
59歳　美唄市

「山形県の酒屋で働いていた祖父が、大正5年に個人で入植したんです。当時この地域は、土地の良い川のそばは大木が生い茂る密林で、少し離れると木も生えない何も無い泥炭の湿地帯だったそうです」と美唄市で農業されて3代目となる安達さんに、地域の米作りについて話をお聞きしました。

―いつ頃からお米をつくり始めたのでしょう。

水田は昭和30年頃から、客土や暗渠排水の土地改良が盛んに行われて、昭和35年頃から米づくりが本格的に行われるようになりました。当時は米不足で、私も学校で一俵増産という中で教育を受け、米づくりを始めてから40年になります。

―上美唄米麦営農組合の組合長さんをされていますが、どのようなお米を作られていますか?

平成5年に設立した営農組合は、現在17戸の組合員で運営し、共同で肥培管理・機械化・一貫作業体系を確立して省力化と生産コストの軽減を目的に、良質で均一な米の生産出荷をしています。

営農組合では栽培区域を指定し、使用する農薬の使用量を減らした低農薬米を作っています。健康食品の発芽玄米などにも使われていますし、今年からは特別なルートとして、コンビニのお弁当で使われるお米として出荷します。

―農薬を減らす苦労にはどのようなことを?

春と秋には、ほ場を乾かすことによって、肥料の効き方や生育を良くしたり、生わらもすき込まずに1年ほどかけて堆肥にしてから畑に戻すなど、種をまくことから収穫までの総合された肥培管理が大事です。

私たちも、農薬を使いたくはないのですが、米の検査で千粒の中にカメムシによる斑点米（はんてんまい）が2、3粒あると一等級下がるので、農薬を使わざるを得ないのです。ですが、むやみに農薬を使用している訳でなく、予察（稲に付いている虫を網ですくってその数によって薬剤散布を判断する）しながら、農薬の使用を少なくしています。

―安達さんの水田ではどんな品種を作られていますか?

私のところでは、国の政策もあって水田が6㌶、転作が3㌶で、お米の作付けは、「きらら」を40%、「ななつぼし」を60%作付けしています。「ななつぼし」は昨年まで、全体の生産が少なく品切れになった状況でしたが、今年は皆さん作付けも増やしましたので大丈夫です。

―最後に「ななつぼし」の味は?

我が家でも毎食「ななつぼし」ですが、粘りもあって、冷えてもおいしいお米です。

JA美唄では雪を利用して、玄米を5℃で貯蔵する施設「雪蔵工房」で保存して出荷しています。とにかくおいしいですから、美唄の「ななつぼし」を一度食べてみてください。

水辺の風景

新緑と水面に写る水管橋（幾春別川上流）

写真募集！

あなたの好きな、水辺の風景を写してみませんか。

応募内容　●プリント、デジタルデータ、ポジフィルムなど、形態は自由。

あなたの「想い」など、お送りいただく写真の風景についてのコメントを原稿用紙などに100文字以内にまとめて、写真と一緒にお送りください。順番に「大好き！幾春別川」に掲載させていただきます。

※1人何点でも応募可。
※写真の返却はいたしません。
※応募は随時受付
●送付先：下記連絡先
「大好き！幾春別川　水辺の風景係」まで

橋は道の一部ですが、川で隔てられたこちらと向こうを結ぶ架け橋となる大切な役割があります。

幾春別川には、たくさんの橋が架かっていますが、このシリーズでは地域と橋との関わりについて触れていきます。橋のシリーズ第1回は、明治の初めから地域の発展に貢献してきた、三笠市の中心地に架かる「三笠山橋」をご紹介します。

連載

幾春別川と橋①
～三笠山橋～

明治の初めに幌内に石炭が発見され、開拓使の役人が何度か調査に訪れています。このころの北海道には道らしい道もなく、札幌から幌内までは、対雁まで歩き、そこから船で石狩川を幌向まで遡り、さらに郁春別川を小舟で上り、幌内川の岸辺に上陸したと記録されています。

石狩川は流木がいたるところにあり、船の航行にも苦労したため、時の開拓使長官黒田清隆の命により、札幌から対雁（ついしかり）、幌向を経由して幌内までの道路を、明治8年に造成しています。この道路は、川の氾濫により出来た川岸の小堤防に設けられ、「石炭山道」と呼ばれ、郁春別川の右岸に在ったとされています。

明治15年、手宮幌内間の鉄道の営業が開始され、幌内太（ほろないぶと）（三笠）に駅が設置されたその年、市来知に空知集治監（現在の刑務所）が設置されました。この集治監は、囚人を炭鉱の労役や道路建設、開墾事業などに使役することを目的にしていました。集治監より幌内まで囚人を輸送するため、明治16年郁春別川に「幌内太橋」が架設されました。

橋は木造であったため、洪水のたびに流されました。このため、明治19年空知集治監により橋台、橋脚を石造りとした丈夫な橋が架設されました。この橋は渡辺典獄（刑務所長）により、「空知橋」と命名され、当時は空知随一の威容を誇ったと言われています。「空知橋」が架けられたことにより、幌内太駅と集治監を結ぶ道路沿の市来知市街地（現在の三笠市中心部）が大変繁栄しました。

戦後の昭和30年、永久橋に架け替えられ「三笠山橋」と橋名も変わり、昭和57年現在の橋に架け替えられましたが、今も三笠市街地と幌内の住宅地を結ぶ重要な架け橋となっています。

行事予定

KOREKARA NO IBENTO NO YOTEI

●河川愛護月間・空き缶拾い
開催日：7月2日
場　所：北村・旧美唄川・桜つづみ公園および水辺の楽校
主　催：NPO法人　山のない北村の輝き

●第9回石狩川下覧（くだらんかい）櫂川下り
開催日：7月9、10日
場　所：石狩川（深川市～砂川市～月形町）
主　催：石狩川下覧櫂

●第10回北海道Eボート大会
開催日：7月9、10日
場　所：砂川遊水地
主　催：北海道Eボート大会実行委員会

●桂沢ダム「森と湖に親しむ旬間」行事
開催日：7月30日
場　所：桂沢湖周囲
主　催：桂沢ダム森と湖に親しむ旬間行事実行委員会

●三笠ダムフェスタ2005＆みかさ遊園まつり
開催日：7月31日
場　所：みかさ遊園
主　催：三笠ダムフェスタ2005＆みかさ遊園まつり実行委員会

●親子釣り大会
開催日：7月31日
場　所：奔別川
主　催：三笠の湖・川・緑を愛する会

●サケののぼる川・地域ふれあい清掃
開催日：8月上旬
場　所：狩野橋上流200mから北盛橋の範囲両岸および花壇
主　催：幾春別川をよくする市民の会

●第4回　旧美唄川・川をはかる・川を見る・川を知る
開催日：9月中旬
場　所：旧美唄川・水辺の楽校
主　催：NPO法人山のない北村の輝き

お便りお待ちしております

本紙は、楽しい誌面をつくるために読者みなさまからのご意見やご感想をお聞きしております。また、「○○についてぜひ取り上げてほしい！」という話題もお待ちしております。どしどしお寄せください。

【連絡先】
石狩川開発建設部 岩見沢河川事務所内
幾春別川ニュース編集委員会 事務局
〒068-0007 岩見沢市7条9丁目
※ご質問の内容は、郵送か、ファックス（0126・25・1697）にお願い致します。